天満*天神 繁昌亭

一。繁昌亭とは

大阪市北区天神橋2丁目にある寄席。上方落語唯一の寄席で、落語を中心に、漫才、俗曲などの色物芸が毎日多数執り行われている。

二。歴史

元々は天神橋筋商店街で落語会を開く予定だったが、打ち合わせをしていくうちに定席の寄席話が持ち上がり、大阪大空襲後60年間上方落語には無かった定席が開設されることになった。2005年12月1日に着工、2006年9月15日開席。「繁昌亭」の名前は、6代目笑福亭松鶴の発案により千里中央のセルシーホールで上方落語協会が主催していた落語席「千里繁昌亭」に由来する。用地は大阪天満宮の寺井種伯宮司の好意により、無料で提供された。建設費約2億4000万円は個人や企業からの寄付金で賄われた。

三。設備

地上鉄筋3階建、延床面積589.93 m^2 。座席は1、2階の216席。設計者は狩野忠正建築研究所、施工者は錢高組。
劇場内外の天井には、募金をした人々の名前や団体約4,500件分の名前の書かれた提灯が並べられている。舞台はヒノキづくりで、高座の膝隠(ひざかくし)は、5代目桂文枝が使っていた物を用いている。また、舞台正面上部に掲げられている額の字「楽」は、明治時代に大阪府船場淡路町にあった「桂派」の寄席「幾代亭」の額の字「薬」に由来する。この額の字は3代目桂米朝による直筆である。

四。大阪落語の歴史

1700年代、元禄時代に京の露の五郎兵衛、大阪の米沢彦八、享保時代に京の二代目米沢彦八が現われ、そうした流れの中で上方落語が完成していったが、1800年頃、大阪に桂派の祖・桂文治が出て上方落語中興の祖となった。大阪坐摩神社境内に寄席を持ち、芝居ばなしを得意に演じたといわれている。文治から多くの弟子が輩出し、桂を名乗る噺家が江戸と上方の両地で活躍、落語の隆盛を導くことになった。幕末の桂文枝は名人といわれ、門下の桂文三・桂文之助・桂文都・桂文団治の四天王が明治の全盛時代を築いた。船場淡路町の「幾代亭」は文枝ら桂派の定席の一つで、床の間や違い棚を備え、大阪一の席といわれた。一方の三友派は平野町や松屋町の「此花館」、法善寺の「紅梅亭」などを定席とし、色物入りの賑やかな高座で対抗した。明治末年に名人が相次いで物故、落語界は分裂状態となったが、大正時代になって吉本興業が完全に制覇、市中の寄席の大半は吉本の経営に移った。昭和9年、名人桂春団治が没した後、同年2代目春団治の襲名、翌10年5代目笑福亭松鶴の襲名があったが、時代の好みは漫才に移り、落語を取巻く状況は徐々に厳しくなる。次代の松鶴・米朝・文枝・春団治の活躍で再び大阪落語が活力を取戻したのは、昭和30年以降のことである。

五。3月21日昼席

＊笑福亭鶴笑・児童福祉文化財認定記念ウイーク

笑福亭鶴笑のパペット落語などの活動が、厚生労働省の児童福祉文化財に認定されたことを記念した演目。

＊出演者（入門年「師匠」）

笑福亭鶴笑（昭和59年「六代目笑福亭松鶴」）

平成12年4月、海外に拠点を移し世界を目指す。平成15年7月、日本初の文化交流使(文化庁より任命される特使)となり、ロンドンに移住して日本文化の普及と理解に務めた。平成26年度厚生労働省児童福祉文化財認定。

笑福亭智六（平成19年「笑福亭仁智」仁鶴の孫弟子にあたる）

神戸市出身、姫路獨協大学英語学科卒業5年のサラリーマン生活後入門。地域で密着し上方落語の普及に努める。

笑福亭たま（平成10年「笑福亭福笑」）

岸和田高等学校、京都大学経済学部卒業後笑福亭福笑に入門。高座名は実家がビリヤード店であることに由来する。

桂三歩（昭和56年「六代桂文枝」）

和歌山県田辺市出身、関西大学卒業後、同じ大学出身の桂三枝（現・桂文枝）に入門。古典落語の他、創作落語も手がける。

笑福亭笑子（平成16年「笑福亭鶴笑」）

神戸山手女子短期大学卒業後、カナダに留学。1998年よりシンガポールでラジオパーソナリティーとして活躍。たまたま取材で訪れた落語会で見た笑福亭鶴笑のパペット落語に感動し2004年3月30日に鶴笑に入門。まもなく師匠鶴笑がロンドンを活動拠点にした為共に移住。2008年より師匠と共に帰国し天満天神繁昌亭を中心に活動し、2010年4月より再びシンガポールへ移住。2012年よりオーストラリア・メルボルンに移住し、精力的に英語でのパペット落語の会、学校でのショーでオーストラリア中を回りながら、定期的に日本にも戻り、繁昌亭などに出演。

笑福亭右喬（平成4年「笑福亭松喬」）

2013年「第8回繁昌亭大賞」爆笑賞受賞。大阪市鶴見区出身。

笑福亭福笑（昭和43年「六代目笑福亭松鶴」）

1998年「上方お笑い大賞審査員奨励賞」受賞。枚方市出身。ラジオで聞いた仁鶴に憧れ入門を請うが、仁鶴からはまだ弟子を取る身分ではないと6代目松鶴に入門するよう諭され入門。現在は仁鶴、鶴光に次ぐ高弟（3番弟子）。松鶴一門の中でも爆笑派で、古典・新作の両刀使いである。

桂蝶六（昭和57年「二代目桂春蝶」）

豊中市出身。1988年毎日放送落語家新人コンクール優勝。4月に3代目桂花團治を襲名予定。

桂三金（平成6年「六代桂文枝」）

東大阪出身。関西大学から八光信用金庫でサラリーマン経験あり。高座名は、金融機関への勤務経験から付けられた。2008年「第3回繁昌亭大賞」創作賞

以上

出典：wikipedia、LIXIL ギャラリー・ホームページより